

問 直近の基礎学力テストの結果を踏まえ、どのような指導方法の工夫がなされているか。

答 学校によっても違いがありますが取組として、授業前の朝学習、読書活動、漢字学習。宿題としての家庭学習や放課後学習。また、ベーシックドリルを活用し、毎週6校時に6人体制で指導を行ったり、更には、算数や数学などは学級を分けて少人数指導を行っています。(中略)

結果としての評価は、学力向上の取組を始めてから一変に向上したとはいえませんが、向上に向けて徐々に成果が見えはじめてもいます。例を挙げますと、取組を始めたころは、全国の学力調査で、最下位県のポイントより更に10ポイント位低かった状況でした。現在では国平均3から6ポイントや年度によっては、全国や都平均よりも教科により大島町の方が高かった時もあります。先生方の指導を高めていくためにも、研究授業を行い、お互いに発表し合い、見合うことで、授業改善を共有し、指導力向上に努めております。

問 学習や生活への意識について

答 基本は早寝早起きと食事をしっかりと摂ることにあります。生活指導として、学校や家庭を通してあらゆる場面で指導は繰り返し行われています。心身の安定と共に良い生活習慣を作ること生活リズムは重要であり学習への意欲にもつながっていくものと思います。

問 個々の目標設定について

答 いつも先生方をお願いしていることは、将来、自分が何に成りたいか、何をしていきたいか、考えて、考えさせ、目的、目標を持たせてほしい。そのためには、少しでも早く、気づき、また、気づきを持たせてほしいと話しています(中略)。

自分が成りたい者にいち早く気づき目的目標をもって努力することで、夢は叶えることができると考えています。

問 GIGA スクール構想のタブレット端末を活用した学習の進捗と課題について

答 進捗については、ミライシードの活用、またPCタブレットを活用し、校外探検でメモや写真撮影に活用、音読の課題で活用、長期の入院や感染状況に応じてオンライン授業の実施、ホワイトボードの代わりに活用、学習発表時に「オクリンク」とパワーポイントに使い分け、Temsで音読課題を出し、自動採点機能があり、正確に読めているか採点できる。児童は良いものを提出できるよう何回も繰り返し取組んでいる。他に習熟度別デジタル問題集、ドリルパーク、「ビブリオバトル」などの活用があります(中略)。

問 基礎学力の向上にもタブレットの活用について

答 先に述べた取り組みを有効活用していくことにあります。

問 ICT支援員の配置について

答 小・中学校の6校で2人の支援員がいることがのぞましく、昨年8月に業者見積を頂いたところ、月に2,400,000円かかることが分かりました、年間で28,800,000円、消費税を入れると31,680,000円が必要となります。国と都の補助制度の利活用もできますが、大島の現状は幸いに少人数学級であり、何か支障が起きた場合など、現在契約している会社へ相談し遠隔操作などでサポートを行っています。様子を見ながらではありますが対応していきたいと思います。

問 令和4年2月に盟約60周年を迎えたハワイ島との交流事業を今後、坂上町長はどのように考えているか。

答 ハワイ島とは1962年姉妹島として盟約を交わしました。交流が途絶えていた時期もありましたが、昨年新たにハワイ島郡長一行がお越しになり、前町長と新たなスタートを切ったところです。また、本年3月にはヒロ高校の生徒一行が来島されました。議員ご指摘のように大島・ハワイ島交流協会や民間と行政・議会が一層協力のもと、さらに「ハワイとの絆」を深めていくことが文化・観光・教育・産業の発展につながるものと考えます。私としてもこの交流事業を継続していきたいと考えます。

新型コロナも落ち着き、ハワイとの対面で、交流する意義・重要性を再認識するため、この度「日本・ハワイ姉妹サミット」がホノルルで開催されます。私も参加し、それぞれの地域が直面している共通の課題として、1) 持続可能なエネルギー、2) 教育、3) 持続可能な観光、4) ビジネス・経済の4テーマについて姉妹関係を通じた協力の可能性について議論してまいりたいと思います。その後、ハワイ島に渡り、郡長と交流を深めてまいります。

これからの時代、若い人たちとの交流も重要だと思えます。姉妹島盟約に基づき事業の推進を図ります。

教育長答弁

村田議員の「大島町児童・生徒における基礎学力向上施策について」お答えします。まず、学力向上に対して、校長会や教育研究総会、学校経営連絡会、学力向上委員会、研修会などの、様々な機会を通じて、学力向上のための取組、私の思いを話し伝えてきました。一部抜粋になりますが紹介します。

今年4月12日の教育研究会の総会（小中学校のほとんどの先生が参加する会ですが）、令和時代の始まりとともに「新学習指導要綱の全面実施」「学校における働き方改革」「GIGAスクール構想」という学校教育にとって極めて重要な取組が大きく進展しつつあります。国においては、こうした動きを加速充実しながら、新しい時代の学校教育を実現していくことが重要である。としています。

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測が困難となってきているといった時代背景を踏まえたうえで、私が言うまでもありませんが、「新学習指導要領」では、資質・能力を「知

識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理した上で、よりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、どのような資質・能力を身につけられるようにするかを明確にしながら、学校教育を学校内のみに閉じず、地域の人的・物的資源も活用し、社会との連携及び協働によりその実現を図る「社会に開かれた教育過程」を重視するとともに、学校全体で、児童・生徒や学校・地域の実態を適切に把握し、実施状況の評価と改善、必要な人的・物的体制の確保などを通じて、教育過程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラムマネジメント」の確立を図ることとしています。また、各教科書の指導に当たっては、資質・能力が偏りなく育成されるよう、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っていくことが重要です。

教職員の皆様が共に力を合わせ、子どもたちが将来「成りたい者に成る」「成れるよう指導していく」。未来への夢や希望をもてるよう指導してほしいと思います。

先生方の研修については、日々あり、教育のプロとして子どもたちをより高みに導いていく使命と同時に、子どもたちの成長過程が見える醍醐味でもあると思います。自身の持っているスキルを更に高めていくことは、子どもたちに反映し結果となります。各学校で行う校内研修や年次研修、職層研修など、そしてそれらを超えたこの「教育研究会」を活かしながら、先生方のひとり一人が日々研鑽に励み、より良い職場環境のもと、一丸となり教育活動に力を発揮して下さるように、とお願いしています。

また、4月25日の学力向上推進委員会・B分科会（授業方法開発委員会）では、保護者からも昔から「学力向上」よりも「スポーツ」に力を入れる傾向にあり、「学力向上」を唱えると、嫌われるということがありました。しかし、今はそんなことをいっている場合ではない。体力も学力もどちらも大事であり、学力がないからといって、将来「自分の成りたい者を諦めるのではなく」「成りたい者になれるよう」自分を創っていく。高めていく必要があると思っています。自分の未来を切り開くことにあります。と、私の思いを伝えさせていただきました。

前段が長くなりましたが、一つ目の質問の、「直近の基礎学力テストの結果を踏まえ、どのような指導方法の工夫がなされていますか。」については、学校によっても違いがありますが取組として、授業前の朝学習、読書活動、漢字学習。宿題としての家庭学習や放課後学習。また、ベーシックドリル（東京都）を活用し、毎週6校時に6人体制で指導を行ったり、更には、算数や数学などは学級を分けて少人数指導を行っています。（教科は全教科

での取組が理想ですが、中心に行っているのは国語・算数・数学です）。

毎年その学年の特性によって違いも波もあります。クラスの中でも大きな差が出るときや、学校によっても違いが生じています。

結果としての評価は、学力向上の取組を始めてから一変に向上したとはいえませんが、向上に向けて徐々に成果が見えはじめてもいます。例を挙げますと、取組を始めたころは、全国の学力調査で、最下位県のポイントより更に10ポイント位低かった状況でした。現在では国平均3から6ポイントや年度によっては、全国や都平均よりも教科により大島町の方が高かった時もあります。先生方の指導を高めていくためにも、研究授業を行い、お互いに発表し合い、見合うことで、授業改善を共有し、指導力向上に努めております。

2つ目の「学習や生活への意識」について、基本は早寝早起きと食事をしっかりと摂ることにあります。生活指導として、学校や家庭を通してあらゆる場面で指導は繰り返し行われています。心身の安定と共に良い生活習慣を作ることで生活リズムは重要であり学習への意欲にもつながっていくものと思います。

3つ目の、個々の目標設定については、いつも先生方をお願いしていることは、将来、自分が何に成りたいか、何をしていきたいか、考えて、考えさせ、目的、目標を持たせてほしい。そのためには、少しでも早く、気づき、また、気づきを持たせてほしいと話しています。高校のない島では、中学卒業と同時に親元を離れなければならない、否応なしに自立が求められます「15の春」といわれていますが、この時点で将来をどのように描いて、日々の活動をしていくか大変厳しくも大きな出発点でもあります。大島ではこれまでも、キャリア教育や職業体験学習を通して、自分の興味・関心を深めていく学習機会があります。現在はキャリアノート（パスポートともいいますが）それらを通して、小中高の生活の中で自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うことになっています。

自分が成りたい者にいち早く気づき目的目標をもって努力することで、夢は叶えることができると考えています。

GIGA スクール構想のタブレット端末を活用した学習の進捗と課題につきましては、まず、進捗については、ミライシードの活用（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実から教育効果の可視化までできる教育ソフトを導入し、それぞれの学習場面で活用しています。また PC タブレットを活用し、校外探検でメモや写真撮影に活用、音読の課題で活用、長期の入院や感染状況に応じてオンライン授業の実施、ホワイトボードの代わりに活用、学習発表時に「オクリンク」（コミュニケーションツール）とパワーポイントに使い分け、Tems で音読課題を出し、自動採点機能があり、正確に読めているか採点できる。児童は良いものを提出できるよう何回も繰り返し取り組んでいる（取組の回数も確認できます）。他に習熟度別デジタル問題集、ドリルパーク、「ビブリオバトル」（読書本の紹介発表です）などの活用があります。

課題については、今挙げた内容を活用できる先生とそうではない先生の差があり、活用事例の共有や活用に慣れていく必要があります。

「基礎学力の向上にもタブレットの活用を」については、先に述べた取り組みを有効活用していくことにあります。

I C T 支援員の配置については、各学校の先生の負担を考慮して、確保できれば理想であると考えます。小・中学校の6校で2人の支援員がいることがのぞましく、昨年8月に業者見積を頂いたところ、月に2,400,000円かかることが分かりました、年間で28,800,000円、消費税を入れると31,680,000円が必要となります。国と都の補助制度の利活用もできますが、大島の現状は幸いに少人数学級であり、何か支障が起きた場合など、現在契約している会社へ相談し遠隔操作などでサポートを行っています。様子を見ながらではありますが対応していきたいと思っております。

町長答弁

「ハワイ島との交流事業を今後どのように考えるか」についてお答えします。

ハワイ島とは 1962 年姉妹島として盟約を交わしました。交流が途絶えていた時期もありましたが、昨年新たにハワイ島郡長一行がお越しになり、前町長と新たなスタートを切ったところです。また、本年 3 月にはヒロ高校の生徒一行が来島されました。議員ご指摘のように大島・ハワイ島交流協会や民間と行政・議会が一層協力のもと、さらに「ハワイとの絆」を深めていくことが文化・観光・教育・産業の発展につながるものと考えます。私としてもこの交流事業を継続していきたいと考えます。

新型コロナも落ち着き、ハワイとの対面で、交流する意義・重要性を再認識するため、この度「日本・ハワイ姉妹サミット」がホノルルで開催されます。私も参加し、それぞれの地域が直面している共通の課題として、1) 持続可能なエネルギー、2) 教育、3) 持続可能な観光、4) ビジネス・経済の 4 テーマについて姉妹関係を通じた協力の可能性について議論してまいりたいと思います。その後、ハワイ島に渡り、郡長と交流を深めてまいります。

これからの時代、若い人たちとの交流も重要だと思います。姉妹島盟約に基づき事業の推進を図ります。